

2018.3.15 第6回SDGsステークホルダーズミーティング



ニッセイアセットのESG運用における SDGsへの取り組みについて

林 寿和

ニッセイアセットマネジメント
ESG推進室／投資調査室 チーフ・アナリスト

ニッセイアセットマネジメント株式会社

本日お話ししたいこと

- 2018年2月28日、ニッセイアセットマネジメントは、日本株式を投資対象とする「ニッセイSDGsジャパンセレクトファンド」の運用を開始しました。
- 本日は、ニッセイアセットのESG評価においてSDGsをどのように取り入れてきたかをお話しさせていただいたのち、当ファンドの特色、ならびに今後、企業様に期待することをお話しさせていただきます。

投資信託説明書(交付目論見書)

使用開始日 **2018.02.26**



ニッセイSDGsジャパンセレクトファンド (年2回決算型)

追加型投信/国内/株式



年2回
決算型

本書は金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目録見書です。
 ファンドに関する投資信託説明書(請求目録見書)を含む詳細な情報は、下記の委託会社のホームページで閲覧またはダウンロードすることができます。また、本書には約款の主な内容が含まれておりますが、約款の全文は投資信託説明書(請求目録見書)に添付されています。

ご購入に際しては、本書の内容を十分に御覧ください。

委託会社[ファンドの運用の指図を行います]

ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者登録番号 関東財務局長(金設)第369号

受託会社[ファンドの財産の保管および管理を行います]

三菱UFJ信託銀行株式会社

〒100-0005 ニッセイアセットマネジメント株式会社
 コールセンター **0120-762-506**
(午前9時~午後5時 土、日、祝祭日お休み)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

投資信託説明書(交付目論見書)

使用開始日 **2018.02.26**



ニッセイSDGsジャパンセレクトファンド (資産成長型)

追加型投信/国内/株式



資産
成長型

本書は金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目録見書です。
 ファンドに関する投資信託説明書(請求目録見書)を含む詳細な情報は、下記の委託会社のホームページで閲覧またはダウンロードすることができます。また、本書には約款の主な内容が含まれておりますが、約款の全文は投資信託説明書(請求目録見書)に添付されています。

ご購入に際しては、本書の内容を十分に御覧ください。

委託会社[ファンドの運用の指図を行います]

ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者登録番号 関東財務局長(金設)第369号

受託会社[ファンドの財産の保管および管理を行います]

三菱UFJ信託銀行株式会社

〒100-0005 ニッセイアセットマネジメント株式会社
 コールセンター **0120-762-506**
(午前9時~午後5時 土、日、祝祭日お休み)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

ニッセイアセットにおけるESG評価の位置付け

- ニッセイアセットでは、長期アクティブ運用の有効性を高める観点から、長期業績予想（最低でも5期予想）のベースとなるESG評価を2008年に導入し、企業価値算出・投資判断の土台としてESG評価を活用してきました。

長期投資

- 長期業績予想（5期予想）に基づいて企業価値を算出し、投資判断
- 市場に織り込まれていない本源的な企業価値を見極め、よりの確な投資判断を目指す
- スチュワードシップ責任を果たす観点からも不可欠



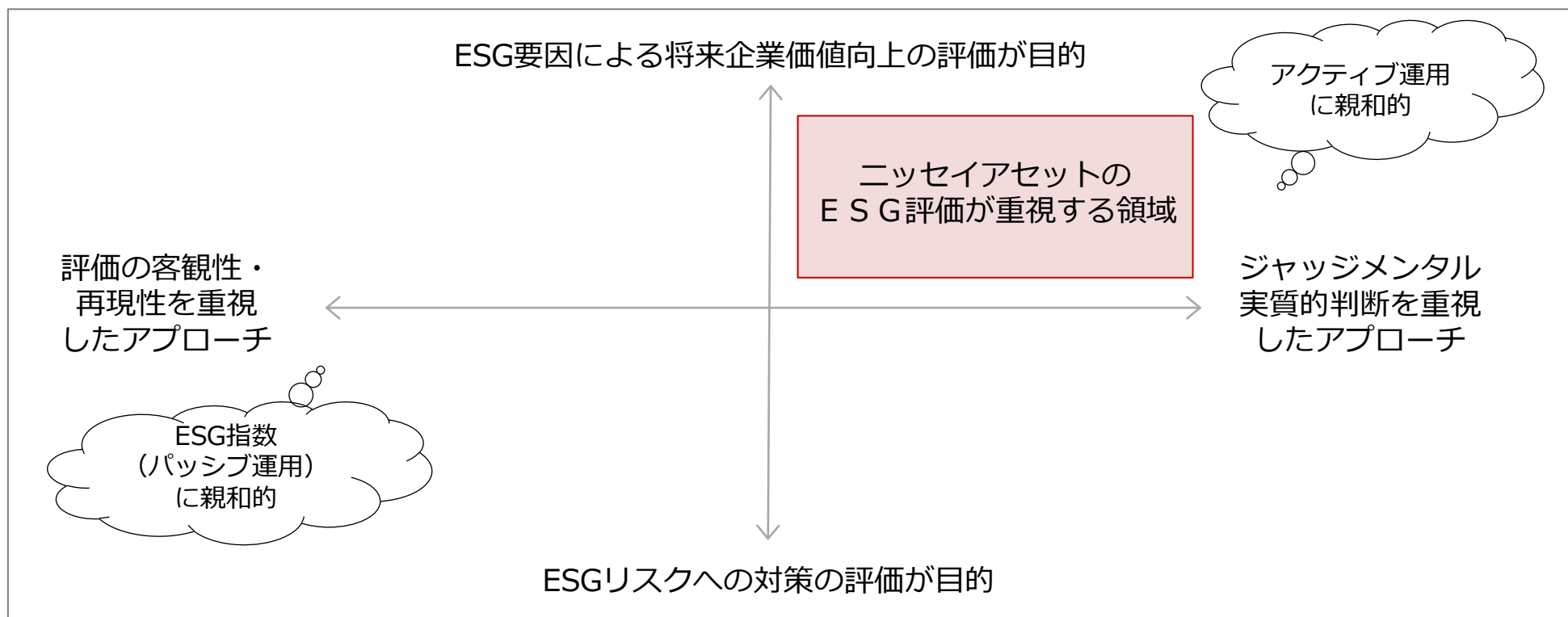
ESG評価

- 長期業績予想（5期予想）の精度・確信度を高めるためのESG評価（5期予想の前提として、アナリストが業績予想に先立ってESG評価を実施）
- ESG評価の視点は、将来企業価値に「ポジティブか」「中立か」「ネガティブか」

ニッセイアセットのESG評価の目的、評価アプローチ

- 「ESG評価」と一口にいても、その目的・アプローチは様々ですが、長期アクティブ運用に力をいれるニッセイアセットでは、ESG要因による将来企業価値向上について、アナリストによる実質的判断を重視したESG評価を行っています。

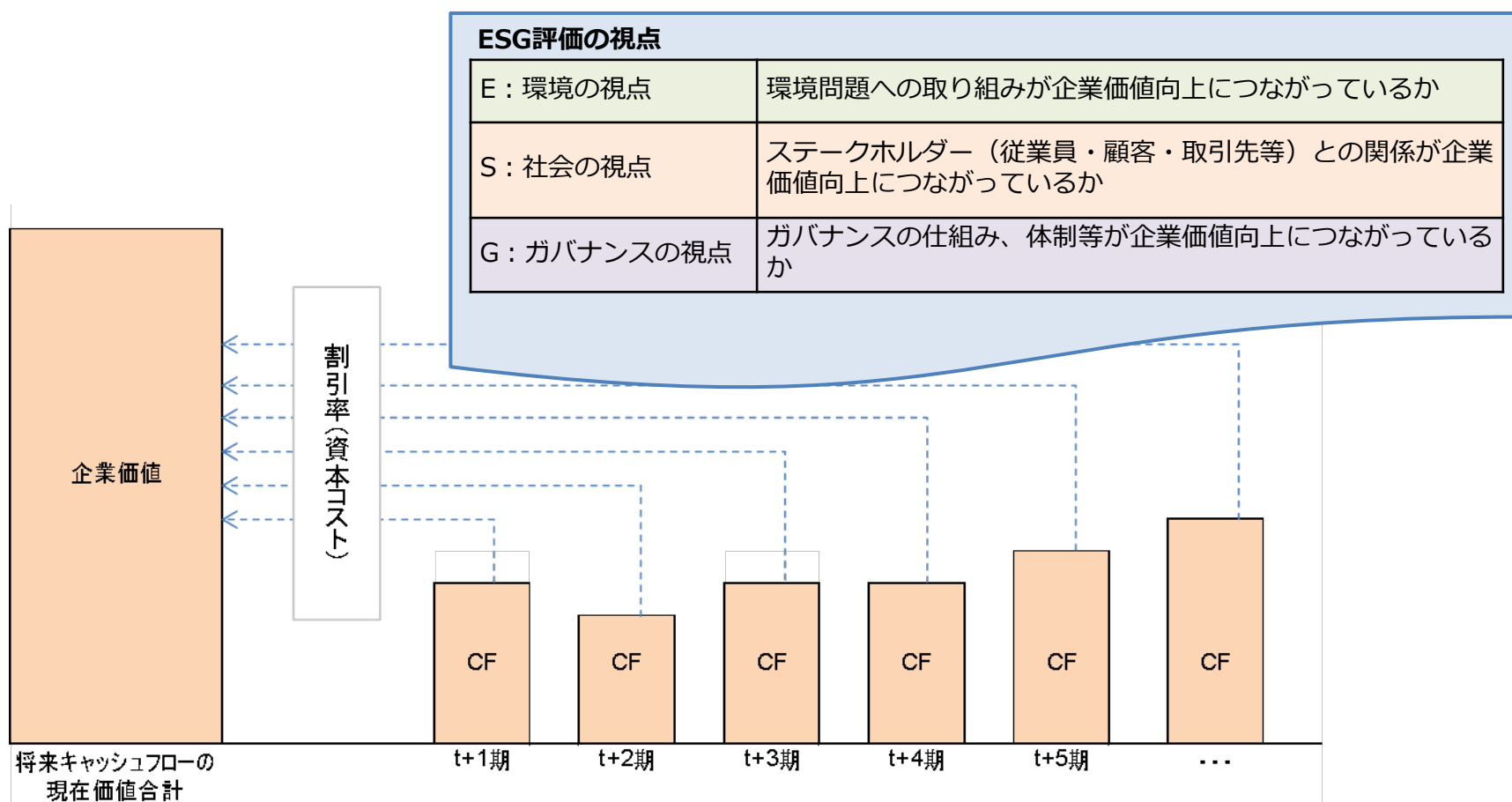
図表 ESG評価のマッピング (縦軸：目的、横軸：評価アプローチ)



出所：ニッセイアセットマネジメント

ESG要因を反映した企業価値の算出

- ニッセイアセットは、将来企業価値向上の観点からESG評価を行った後、それを5年先までの業績予想（損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー計算書の予想）に落とし込んでいます。
- ESG要因の影響を反映した将来キャッシュフローを資本コストで現在価値に割り引くことによって、企業価値を算出し、投資判断に活用しています。



出所：ニッセイアセットマネジメント

ニッセイアセットのESG評価におけるSDGsの含意

- ニッセイアセットのESG評価において、SDGsは次のような意味を持つと考えています。

- 2015年に採択されたSDGsは、日本を含む国際社会にとって重要、かつ国際社会が解決に向けて取り組むことで合意した環境問題/社会的課題が包括的にリストアップされている。
- 環境問題/社会的課題の解決に資する製品・サービスの供給は、将来企業価値に関連し得る重要な要素であり、ニッセイアセットのESG評価（特にE評価、S評価）において、従前より重要な評価項目の一つとして注目。
- 投資家にとってSDGsは、環境問題/社会的課題の解決に資する製品・サービスを評価する際、「何が重要性の高い環境問題/社会的課題なのか」の指標となる極めて有益かつ示唆に富むものである。
- SDGs関連市場は平均的に見て今後高い成長が期待(*)されているが、SDGsのゴール達成に資する製品・サービスを手掛けることが、ただちに将来企業価値向上を約束するものではないと考えられることから、アクティブ運用を行う投資家としては、将来企業価値向上が期待できるものを峻別する必要がある。

(*) Business & Sustainable Development Commission (2017). "Better Business, Better World"

ニッセイアセットのESGプロダクツ

- ニッセイアセットでは、ESG評価を活用した共通の研究プラットフォームをベースに、お客様の多様なニーズに応えるべく、ESGプロダクツの拡充・強化を進めてきました。
- 今般、ESGプロダクツ充実の一環として「ニッセイSDGsジャパンセレクトファンド」を立ち上げました。

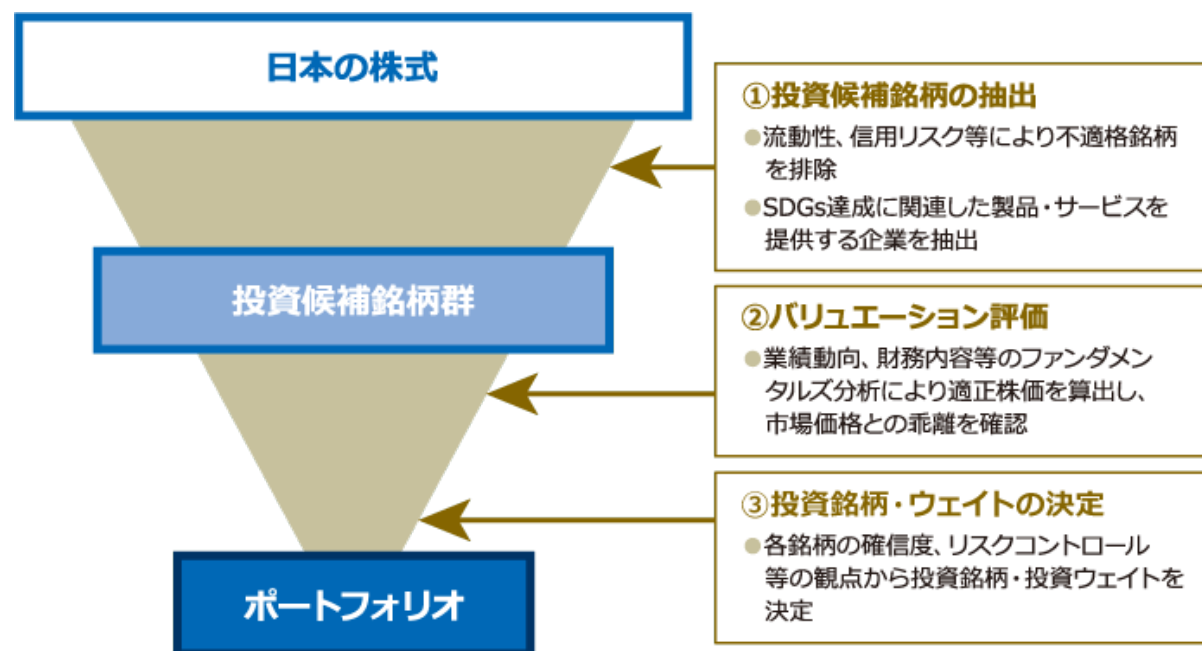
ニッセイアセットのジャッジメンタル運用



ESG評価を活用した共通の研究プラットフォーム

ニッセイSDGsジャパンセレクトファンドのポイント

1. 日本企業の株式に投資
2. SDGs達成に関連した事業を展開する企業のなかから、企業価値向上、ひいては株価上昇が期待される銘柄を厳選
3. SDGs達成に関連した事業を展開する企業への投資を通じて、SDGsへの取り組みを応援

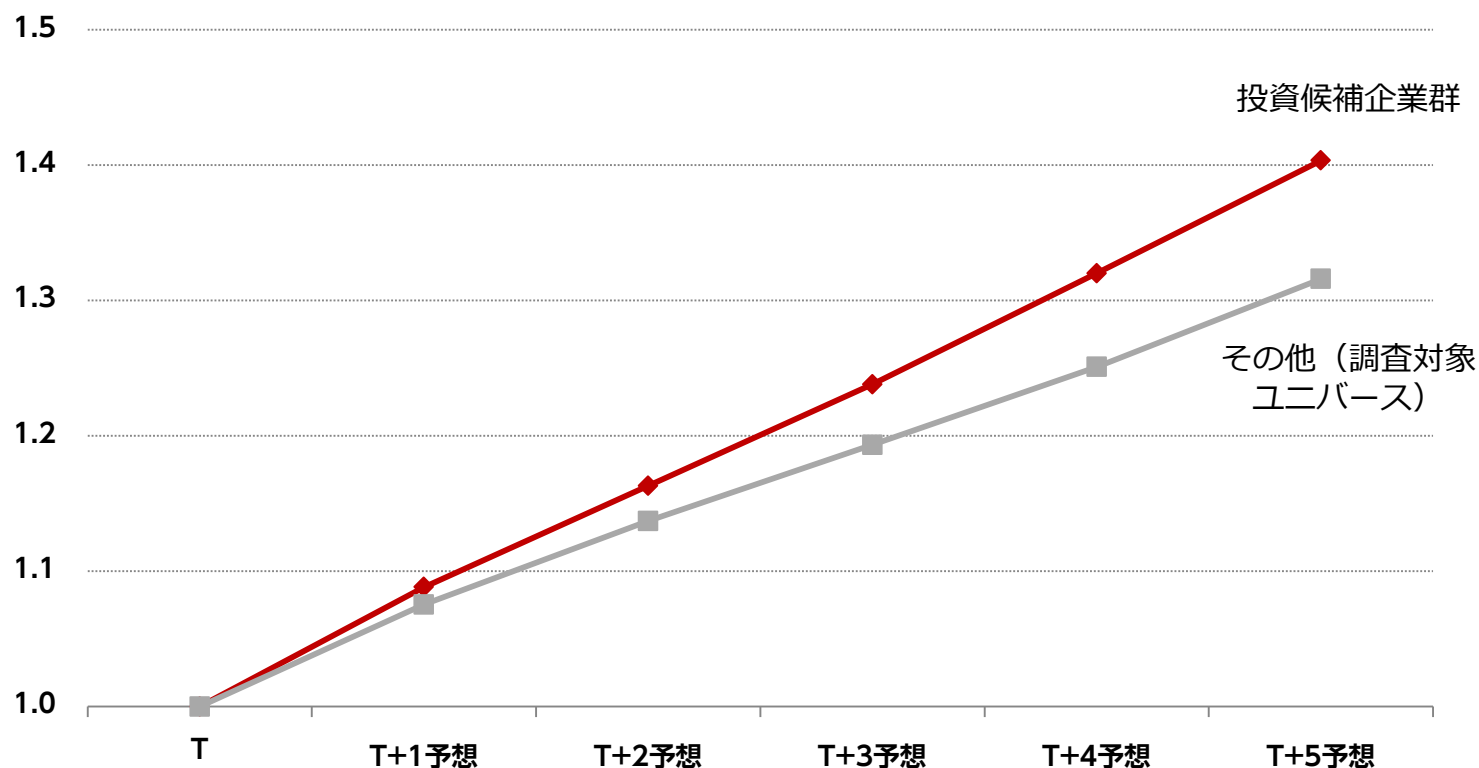


・上記運用プロセスは、今後変更となる場合があります。

投資候補企業群の業績予想

- SDGs達成に関連した事業を展開する企業のうち、中長期に企業価値が高まるとアナリストが判断した企業群(投資候補企業群)の業績予想は下図のようになっています。
- 調査対象ユニバースのその他の企業と比べ、平均的にみて、高成長を予想しています。

図表 投資候補企業群の売上高予想の推移



注：Tは2016年度。各企業の2016年度の売上高を1とし、2017年度～2021年度までの売上高予想（2018年2月末時点）の平均値を算出。
出所：ニッセイアセットマネジメント

今後、期待すること

- 企業様におけるSDGsへの取り組みに関して、今後、以下を期待したいと考えています。

- SDGsが採択されて以来、日本の上場企業の間にはSDGsを意識した動きが急速に広がってきている。
 - ✓ ニッセイアセットが業績予想を行っている約400社のうちの4分の1程度が、統合報告書やサステナビリティ報告書等でSDGsに言及。
 - ✓ 他方、SDGsに密接に関連する事業を営んでいながらも、SDGsを意識していない企業も少なくない印象。SDGs達成への貢献を意識されることで、新たな気づきにも繋がる可能性。
- 自社の事業内容やCSR活動とSDGsの対応関係を整理され、自社にとってのマテリアリティを確認・再定義される際には、17ゴールのレベルで議論するのではなく、169のターゲット、232のモニタリング指標のレベルで具体性をもって議論され、情報発信されることを期待。
- SDGs達成に関連する製品・サービスのすべてが、ただちに企業価値向上に繋がるとは限らない。当該事業がより持続可能で、より大きな社会的インパクトを持つためにも、差別化や収益性向上などの観点も含めて本業として大きく育てていくことを期待。
- 2030年に向けて、国連グローバル・コンパクトらが指摘(*)する「アウトサイド・イン」(バックキャストिंग)の発想で、SDGs達成に大きく貢献するイノベーションが数多く生まれてくることを期待。

(*) グローバル・レポート・イニシアティブ (GRI)、国連グローバル・コンパクト (UNGC)、持続可能な発展のための世界経済人会議 (WBCSD) 「SDGs compass : SDGsの企業行動指針ーSDGsを企業はどう活用するかー」

(ご参考) ニッセイアセットのESG運用のヒストリー

ニッセイアセットのESG関連の取組みヒストリー

2004年 長期業績予想（5年）をベースとした株価評価・投資判断プロセスを導入

2005年 ジャパン・スチュワードシップ・ファンド運用開始

2006年 国連責任投資原則（PRI）に署名

2007年 ICGN(International Corporate Governance Network) に加盟

2008年 ESG評価の運用プロセスへの組み込み

2014年 日本版スチュワードシップ・コードの受入れ、取組方針の公表

2015年 PRI年次評価「戦略とガバナンス」部門で最高評価のA+を取得

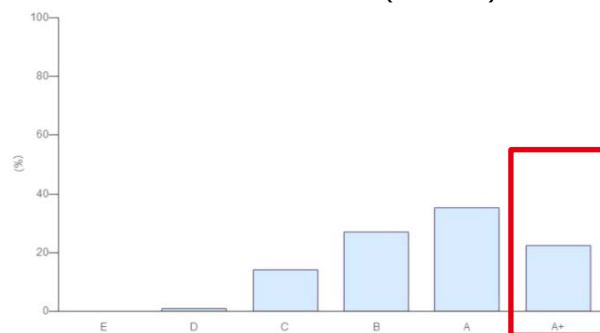
2016年 PRI年次評価「戦略とガバナンス」で2年連続、「ESG統合」部門で最高評価のA+を取得

2017年 PRI年次評価「戦略とガバナンス」で3年連続、「ESG統合」部門で2年連続最高評価のA+を取得

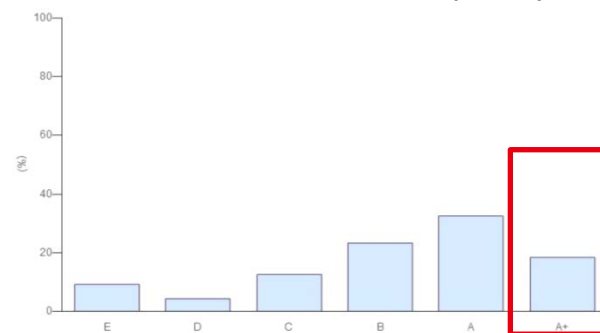
2018年 ニッセイSDGsジャパンセレクトファンド運用開始

国連責任投資原則（PRI）による評価の分布

＜戦略とガバナンス(1237社)＞



＜上場株式におけるESG統合(481社)＞



- ◆当資料は制度あるいは仕組みのご説明と弊社がご提供できるサービスをご紹介するために作成したものです。予め特定の方向や対応を推奨する目的のものではありません。
- ◆手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。
- ◆投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- ◆市場見通し等は、お客様の運用方針や投資判断等の参考となる情報の提供を目的としたものです。実際の投資等に係る最終的な決定は、お客様ご自身のご判断で行っていただきますようお願い申し上げます。
- ◆当資料に記載された運用商品、手法等は、リスクを含みます。運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）は全て投資家の皆様のものとなります。元本が保証された商品、手法ではありません。
- ◆当資料は、現時点で信頼できると考えられる情報を基に作成しておりますが、情報の正確性や完全性を保証するものではありません。
- ◆シミュレーションやバックテスト等は、参考データをご提供する目的で作成したものであり、将来の利回りを保証するものではありません。
- ◆当資料は、2018年3月現在で作成しております。
- ◆当資料に関わる一切の権利は、引用部分を除き弊社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。
- ◆当資料に掲載したインデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、当該インデックスの公表元またはその許諾者に帰属します。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会